岩手県立博物館研究報告第 42 号，2025 年 3 月　46〜55 ページ
Bulletin of the Iwate Prefectural Museum, No. 42, pp. 46-55, March, 2025

土井信夫コレクションに含まれていた明治及び大正時代の昆虫標本の来歴

渡辺修二 [1*]・佐々木麻由 [2]

The Provenance of Meiji and Taisho Era Insect Specimens from the DOI Nobuo Collection

WATANABE Shuji, SASAKI Mayu

[1] 岩手県立博物館　020-0102　盛岡市上田字松屋敷 34　Iwate Prefectural Museum, Ueda Matsuyashiki 34, Morioka City, 020-0102, Japan.
[2] 滝沢市 Takizawa City, Japan

Abstract

We investigated the provenance of insect specimens collected during the Meiji and Taisho periods, which are part of the DOI Nobuo Collection. These specimens were formerly stored at the Entomology Laboratory, Faculty of Agriculture, Iwate University. The Meiji-era specimens are presumed to have been collected by Professor NIIJIMA Yoshinao, Sapporo Agricultural College, and SHINOZAKI Masahide, a graduate of the same institution. In the Taisho period, it is presumed that a specimen was collected by CHIKAMORI Yoshikatsu, a student of Morioka Imperial College of Agriculture and Forestry. Our findings suggest historical interactions between Sapporo Agricultural College and the Entomology Department of Morioka Imperial College of Agriculture and Forestry.

はじめに

土井信夫氏は『早池峰の花 ：土井信夫写真集』(1980) 等の著書で知られる写真家であり，『岩手県の大蛾類』 (2005) を発刊された昆虫研究者でもある．収集された昆虫標本 (以下，土井コレクションと呼ぶ) は，土井氏が亡くなられた 2016 年に当館に寄贈された．

土井氏は，自身で収集した標本のほか，岩手大学農学部昆虫学教室に置かれていた標本コレクション (以下，岩手大学昆虫教室コレクションと呼ぶ) を個人で引き受け，自宅敷地内に標本用の小屋を建てて管理していた．著者が寄贈標本の受け取りで状態を確認した際，標本箱は数箱ずつ厚手のポリ袋に包んだうえで袋の隙間をテープで塞いだ状態で保管されていた．標本箱及び袋内に入れた防虫剤は定期的に補充されており，標本に虫害等は見られなかった．

岩手大学昆虫教室コレクションには，明治時代や大正時代に採集された標本が含まれていた．本研究ではこれらの標本の来歴を調査した．

方法

岩手大学昆虫教室コレクションに含まれている標本のうち，4434 点についてラベルに記載されていた採集地，採集年月日，採集者，種名等の情報をリストにまとめた．その中から，明治時代及び大正時代に採集された標本について，ラベル記載事項に基づいて文献調査を行った．

結果

来歴調査により，明治〜大正時代に採集されたと考えられる標本が 22 点確認された．各標本について，岩手県立博物館資料登録番号（IPMM）と，ラベルの原記載内容及びそれらを修正したデータを上下に並べて表 1 に示した．

明治時代の標本採集者は新島善直と篠崎眞秀，大正時代は近森善一であったが，採集者不明の標本も多かった．以下に，採集者ごとにまとめて来歴を紹介する．

新島善直採集標本

IPMM316419～316421 につけられたラベルには，共通して手書きで「Moiwa」と書かれており，IPMM316419 と IPMM316421 には「Niisima」と印刷されている (図 1～3)．ラベルを書く際，基本的に採取地は必ず書くこと，採集者名は印字して省力化することがあることから，Moiwa は採集地，Niisima は採集者と考えられる．採集者の Niisima と同じ表記のラベルが東京大学総合博物館収蔵の佐々木忠次郎関連コレクション中 (例えば登録番号 SF-32-Col064 等) に見られ，採集者は新島善直とされている (東京大学総合研究博物館 2021)．この標本の採集者も同じ人物であろう．

新島善直（にいじま　よしなお） (1871–1943) は北海道帝国大学の教授だった人物で，林学者として知られているほか，日本でキクイムシ類の分類を始めた人物であるなど，昆虫にも造詣が深かった (中島 1962，後藤 2009)．なお，新島は「にいじま」と読むが，1941 年以前は Niisima，それ以降は Niijima を使っていた (後藤 2009)．標本 IPMM316420 の採集年の 1904 年当時，新島は札幌農学校林学科教授であったことから (日本林業技術協会 1962)，採集地の Moiwa は札幌市の藻岩山と考えられる．採集地が同じ他 2 点の採集年も 1904 年であろう．なお，IPMM316419 のラベル原記載の採集日 71 は，7 の文字の上部分をこすったような跡が見られ (図 1c)，書き損じて 11 と修正したのかもしれない．この推測が正しければ採集日は 1904 年 6 月 11 日となる．同種である IPMM316420 の日付は判別が困難であるが (図 2b)，おそらく 1/VI 1904 だと思われる．また，IPMM316421 の採集年月日 July 04 は 7 月 4 日ではなく，1904 年 7 月の意味であろう．

このほか，IPMM316422 及び 316423 のラベルの筆跡 (図 4，5) は IPMM316421 と類似しており，これも新島が採集あるいは収集した標本であると推定される．IPMM316422 は北米に分布する *Zerene eurydice* (Boisduval, 1855) である．新島が北米を訪れた記録はなく (中島　1962)　自身で採集した標本ではないと思われる．IPMM316423 は，ラベルではタイワンモンシロチョウとされているが，キチョウ *Eurema hecabe* (Linnaeus, 1758) である．タイワンモンシロチョウとキチョウは明らかに外観が異なることから，誤同定ではなく，ラベルの取り違えの可能性も考えられる．新島は，当時台湾などにあった大学の演習林の経営及び監督のために出張することがあり (中島 1962)，その際に台湾で採集する機会があったと思われる．

これらの標本がなぜ岩手大学あるいは盛岡高等農林学校の昆虫学教室で保管されることになったのか，経緯は不明である．

篠崎眞秀採集標本

IPMM316424 (図 6) には大きさが異なる 2 枚のラベルが付いている．大きいラベル (図 6b) には，「*Leucochloë daplidice* L.」，「♂テウセンシロテフ」，「満洲遼陽」，「明治卅七年九月四日」 (卅は三十の意味) と書かれている．小さいラベルは両面に書き込みがあり，表 (図 6c) には「三十七年九月四日於遼陽城北太子河右岸採集 (遼陽占領ノ日) 」，裏 (図 6d) には「農学士 (少尉) 篠嵜真秀」と書かれている．筆跡の違いから，2 枚のラベルはそれぞれ異なる人物が書いたものであり，名前が書かれた小さいラベルの方を採集者が書いたと思われる．

学名 *Leucochloë daplidice* は，*Ponita daplidice* のシノニムである (GBIF 2023)．本種は同属の *P. edusa* と外観で区別が困難であり，両種とも本標本の採集地を含む旧北区に分布することから，本標本の種の特定はできなかった．なお，両種とも日本には分布せず，迷蝶として *P. edusa*（チョウセンシロチョウ）が記録されている (白水 2006)．

採集地の遼陽は現在の中国遼寧省の遼陽市であり，標本が採集された明治 37 年 (1904) 当時は清の領地だった．採集した明治 37 年 9 月 4 日は日露戦争 (1904–1905) の最中であり，遼陽を占領していたロシア軍を日本軍が撤退させた遼陽会戦 (1904 年 8 月 24 日–9 月 4 日) が終結した日である．

採集者の篠嵜真秀は農学士 (少尉) と肩書が書かれていることから，大学の農学科あるいは農学校等を卒業し，遼陽会戦に少尉として参加していた人物である．これに当てはまるのは鹿児島県出身で札幌農学校 (現在の北海道大学) の卒業生，篠崎眞秀（読み仮名は不明．「しのざき　まさひで」か）であると思われる (札幌農學校 1907)．以下に篠崎の略歴を示した (大蔵省印刷局 1906a, b，陸軍省 1912，斎木 1915)

明治　3 年 (1870) 鹿児島県鹿児島市生まれ
明治 31 年 (1898) 札幌農学校卒業
明治 32 年 (1899) 一年志願兵，同年予備役
明治 33 年 (1900) 鹿児島県師範学校 (教員)

明治 34 年 (1901) 陸軍歩兵少尉
明治 35 年 (1902) 鹿児島県大島農学校教諭，同年校長事務取扱
明治 36 年 (1903) 鹿児島県大島農学校休職，陸軍に動員
明治 37 年 (1904) 9 月 陸軍中尉
明治 39 年 (1906) 陸軍後備役編入，大分県立農学校教諭
大正 2 年 (1913) 大分県立農林学校校長

篠崎の日露戦争への参加については『歩兵第十三聯隊史』 (帝国聯隊史刊行会 1923) に記述がある．篠崎は陸軍第二軍第六師団歩兵第十三連隊に所属し，日本を出発する際にはその補充大隊職員表に小隊長として少尉篠崎眞秀の名前がある．第十三連隊は，遼陽会戦の戦闘が終結した 9 月 4 日の朝に遼陽に移動し，正午には北進に備えて部隊が集合して整列している (帝国聯隊史刊行会 1923, 沼田 1924)．標本はこの日に採集されており，採集地は遼陽城北太子河右岸である．太子河は遼陽のすぐ東側を南から流れており，北に向けて進軍するために部隊は遼陽の対岸である右岸に渡って集合したと思われる．この際に標本を採集したのであろう．

この日以降の，日露戦争における篠崎の行動がわかる文献は見つからなかった.『教育家銘鑑』(斎木 1915)には，遼陽会戦後，9 月に中尉，11 月に従七位の叙勲を受け,「満洲各地に転戦功あり」との記述があり，少なくともしばらくは戦地にいたと思われ，終戦まで従軍したのかもしれない．第十三連隊が日本に戻り，所属していた者が復員したのは明治 39 年 (1906) 3 月 16 日である (帝国聯隊史刊行会 1923)．篠崎は 4 月 1 日に後備役となり，6 月 7 日に大分県立農学校教諭の辞令を受けている (大蔵省印刷局 1906a, b)．

篠崎が戦地から持ち帰った標本が，どのような経緯で盛岡高等農林学校の昆虫学教室で所蔵されることになったのかはわからなかった．後述するように，チョウセンシロチョウの種名ラベル (図 6b) を書いたのは盛岡高等農林学校に所属していた近森善一であると推定されることから，近森が卒業する 1919 年までに，あるいは助手として所属していた 1923 年までに盛岡高等農林で所蔵されるようになったと考えられる．盛岡高等農林学校の植物学・植物病理学教室初代教授である山田玄太郎は篠崎の同期であることから (札幌農學校 1907)，その繋がりで標本が寄贈された可能性が考えられるが，そのような経緯を示唆する文献は見つからなかった．

チョウセンシロチョウの標本のほか，IPMM316425–316427 (図 7–9) も篠崎が採集した標本であると思われる．IPMM316425 にはラベルが 2 枚付いており，ラベル用紙の一部をちぎり取って書かれたもの (図 7c) の筆跡 (「北」など) は，図 6c の筆跡と類似していることから，篠崎が書いたものと思われる．同様に，IPMM316426 と 316427 のラベル (図 8b，9b) の筆跡 (特に「台」) は図 7c と類似しており，これらも篠崎が書いたものであろう．一方，IPMM316425 のもう一枚のラベル (図 7b) は，学名の「L」や和名の「テフ」などの筆跡から，篠崎ではなく，IPMM316424 の同定ラベル (図 6b) と同一人物 (近森善一) が書いたものと思われる．

これらのラベルの情報から，1908 年 9 月 12–30 日にかけて，当時大分県立農学校の教諭であった篠崎が，台湾を訪れて標本を採集したことが推察される．1908 年は台北に台湾総督府農事試験場が設置された年で，試験場には札幌農学校出身者が多く勤めていたことから (呉 2008, アジア歴史資料センター), 設置を機に台湾を訪れたのかもしれない．

近森善一採集標本及び同定ラベル

IPMM316428 はアオハナカミキリと同定されており，樺太で採集されている．状態が悪く全体が黒化しており，特徴である緑色を確認することができないが，体長や形態はアオハナカミキリの特徴を備えていると思われる. 本種は旧北区に分布し, 樺太にも分布する (大林・新里 2007)．

ラベルに書かれた「近森」は採集者であると思われる．標本が採集された大正七年 (1918) に，岩手大学の前身である盛岡高等農林学校に所属していた学生や職員で近森姓は農学科第一部第三学年の近森善一だけであることから (盛岡高等農林学校 1926)，採集者は近森善一（ちかもり よしかつ）であろう．

近森善一の読み仮名は，各文献等において姓は「ちかもり」で統一されているが，名は「よしかつ」 (公文 2019, 鈴木 1996) と「ぜんいち」 (国立国会図書館, 貞光 1997, 魚乃目 2017) の二通りが見られる．鈴木 (1996) は近森の略年譜を掲載するにあたり，近森の長男から承諾を得ており，名前の読みについても確認し

ていると考えられることから,「よしかつ」が正しい読みであろう.

近森は, 宮澤賢治の著書『注文の多い料理店』(1924) の発行人として知られている (鈴木 1996). 自身でも昆虫に関する書籍を執筆, 出版しており (近森 1923a, b), 昆虫に詳しい人物であった.

標本が採集された 1918 年の 8–9 月には, 札幌で北海道博覧会が開催されていた (北海道開拓倶楽部 2020). 盛岡高等農林学校の獣医学科第三学年や林学科第二学年は, 教員が統導する見学出張でこの年の 8 月に北海道を訪れているが (盛岡高等農林學校校友會 1918), 近森は農学科であるため学校行事としては北海道に渡っていないと思われる. しかし, 校友會雑誌第 37 号 (盛岡高等農林學校校友會 1918) に近森が投稿した『盛岡市附近の蝶類』中で, ヒメシロチョウの前翅前縁に黒紋のないものを変種として掲載したことについて, 北海道博覧会にこのような標本が変種として出品されていたためであると述べており, 個人的に北海道を訪れ, 博覧会を見学したと推定される. 近森が樺太まで行ったことを示す文献は見つからなかったが, 北海道博覧会には樺太からの出品があり,『樺太案内』と題したパンフレットが用意されているなど (赤阪 1918, 北海道大学), 当時日本の領地であった樺太は今日より身近な存在であったと思われる. 近森は 1918 年 8 月に北海道, 樺太を歴訪し, 本標本を採集したのであろう.

IPMM316428 のラベルのほか, 篠崎が採集した IPMM316424, 316425 及び採集者不明の IPMM316429–316440 のラベル (図 11b–22b) は, 筆跡から同一人物が書いたものと考えられる. IPMM316428 のラベルは採集者名として「近森」と書かれており, 採集者である近森自身が書いたと思われる. よって, 筆跡が同じこれらの一連のラベルは近森が書いたものと推定される.

なお, IPMM316421–316440 の同定ラベルはいずれも同様のデザインであるが, 新島と篠崎が書いたと思われるラベル (図 3b–5b, 8b, 9b) は No. (あるいは NO.) を書く場所があるが, 近森が書いたと思われるラベルには No. 欄がないなどの違いがある. 当時このようなラベルが一般的に販売されていたか, あるいは札幌農学校で使われていたラベルを参考に, 盛岡高等農林学校で同様のラベルを作ったのかもしれない.

おわりに

今回の標本来歴調査により, 岩手大学昆虫教室コレクションに札幌農学校関係者の標本が含まれていたことが明らかとなり, 明治〜大正時代にかけて, 札幌農学校出身者と盛岡高等農林学校昆虫学教室との間で人的交流があったことが示唆された. また, 戦地や旅先での標本採集など, 過去の人物の足跡をたどることのできる興味深い標本が確認された. 本コレクションには今回紹介した標本以外にも, 県内外で昭和初期〜1980 年代に採集された多くの標本が含まれており, 引き続き整理, 登録作業を進めたい.

謝辞

貴重なコレクションを当館へ寄贈していただいた, 土井信夫氏のご遺族に改めて感謝申し上げる. 標本ラベルの旧漢字及び崩し字の判読に協力いただいた, 当館民俗部門専門学芸員の川向富貴子氏, 歴史部門学芸員の大銚地駿佑氏に感謝申し上げる.

引用文献

赤阪敬止（1918）開道五十年博覧会（河北新報 1918 年 8 月 3 日）. 神戸大学新聞記事文庫. https://da.lib.kobe-u.ac.jp/da/np/0100110118/（参照 2025/01/05）.

アジア歴史資料センター. 台湾総督府農事試験場. アジ歴グロッサリー. https://www.jacar.go.jp/glossary/term2/0050-0010-0010-0010-0350.html（参照 2025/01/05）.

近森善一（1918）盛岡市附近の蝶類. 校友會雑誌 37: 49-53.

近森善一（1923a）蠅と蚊と蚤. 東北農業薬剤研究所, 盛岡.

近森善一（1923b）病虫害駆除予防便覧 : 農家実用. 東北農業薬剤研究所出版部, 盛岡.

土井信夫（1980）早池峰の花 : 土井信夫写真集. 誠文堂新光社, 東京.

土井信夫（2005）岩手県の大蛾類. 自刊, 雫石町.

GBIF (2023) *Eurema hecabe* (Linnaeus, 1758). GBIF Backbone Taxonomy. https://www.gbif.org/ja/species/5137849（参照 2025/01/05）.

呉文星（2008）札幌農学校卒業生と台湾近代糖業研究の展開 : 台湾総督府糖業試験場を中心として (1903〜1921). 松田利彦（編）日本の朝鮮・台湾

支配と植民地官僚，pp 89-105．人間文化研究機構国際日本文化研究センター，京都．

後藤秀章（2009）日本産キクイムシ類分類学研究の歴史と種のリスト．日本森林学会誌 91: 479-485 doi: 10.11501/2496669.

北海道大学．樺太案内 / (北海道博覧会) 樺太出品協会．北方資料データベース．https://www2.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/hoppodb/record.cgi?id=0F003040100000000（参照 2025/01/05）．

北海道開拓倶楽部（2020）開道五十年記念北海道博覧会．https://www.hokkaidokaitaku.club/100nenkinento/etcetera190901.html（参照 2025/01/05）．

国立国会図書館．近森，善一．Web NDL Authorities 国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス．https://id.ndl.go.jp/auth/ndlna/00411943（参照 2025/02/19）．

公文豪（編）（2019）ガイドブック 富家の歴史．土佐史談会，香南市．

宮澤賢治(1924)イーハトブ童話　注文の多い料理店．杜陵出版部，盛岡・東京光源社，東京．

盛岡高等農林学校（1926）盛岡高等農林学校一覧 従大正 7 年至 8 年．盛岡高等農林学校，盛岡．

盛岡高等農林學校校友會（1918）雑報．校友會雑誌 37: 132-133．

中島広吉（1962）新島善直先生．林業先人伝：技術者の職場の礎石，pp577-605．日本林業技術協会，東京．

沼田多稼蔵（編）（1924）日露陸戦新史．兵書出版社，東京．

大林延夫•新里達也（編）（2007）日本産カミキリムシ．東海大学出版会，神奈川．

大蔵省印刷局（編）（1906a）官報 1906 年 05 月 24 日．大蔵省印刷局，東京．

大蔵省印刷局（編）（1906b）官報 1906 年 06 月 18 日．大蔵省印刷局，東京．

陸軍省（編）（1912）陸軍予備役後備役将校同相当官服役停年名簿 明治 45 年 7 月 1 日調．川流堂，東京．

貞光威（1997）宮沢賢治をめぐる人々考．聖徳学園岐阜教育大学国語国文学 16: 40-69.

札幌農學校（1907）札幌農学校一覧 明治３６−３９年分．p95 札幌農學校，札幌．doi: 10.11501/812781．

斎木織三郎（編）（1915）大日本現代教育家銘鑒 第 2 輯．教育実成会，東京．

白水隆（2006）日本産蝶類標準図鑑．学研，東京．

鈴木健司（1996）童話集『注文の多い料理店』発刊をめぐって─発行者・近森善一の談をもとに．言語文化 13: 93-123.

帝国聯隊史刊行会（編）（1923）歩兵第十三聯隊史．帝国聯隊史刊行会，東京．

東京大学総合研究博物館（2021）佐々木忠次郎関連コレクション・昆虫目録８ (鞘翅目３)．東京大学総合研究博物館データベース，https://umdb.um.u-tokyo.ac.jp/DEntomology/Sasaki8Coleoptera3/jp/cabinet2.php?Number=SF-32（参照 2025/01/05）．

魚乃目三太（2017）宮沢賢治の食卓．少年画報社，東京．

要　　旨

本研究では，土井信夫コレクションに含まれる明治及び大正時代に採集された標本について来歴を調査した．これらの標本は，元は岩手大学農学部昆虫学教室で保管されていたものである．標本は，明治時代には札幌農学校教授の新島善直と同学校得業生の篠崎眞秀，大正時代には盛岡高等農林学校の近森善一によって採集されていたと推定される．これらの標本から，札幌農学校と盛岡高等農林学校昆虫学教室の間に人的交流があったことが示唆された．

キーワード：昆虫標本，明治時代，大正時代，札幌農学校，盛岡高等農林学校

岩手県立博物館研究報告第 42 号，2025 年 3 月　46～55 ページ
Bulletin of the Iwate Prefectural Museum, No. 42, pp. 46-55, March, 2025

表 1　来歴を調査した標本一覧

IPMM	原記載*	年月日	地名	採集者	学名	和名 雌雄	同定者
316419	原	71 VI. 04	Moiwa	Niisima			
		1904/06/11	北海道札幌市藻岩山	新島善直	*Eutetrapha sedecimpunctata sedecimpunctata* (Motschulsky, 1860)	シナカミキリ	渡辺修二
316420	原	1/ VI 1904	Moiwa		*Saperda sulphurata* Gebl.	シナノカミキリ	新島善直
		1904/06/1	北海道札幌市藻岩山	新島善直	*Eutetrapha sedecimpunctata sedecimpunctata* (Motschulsky, 1860)	シナカミキリ	
316421	原	July 04	Moiwa	Niisima			
		1904/07/**	北海道札幌市藻岩山	新島善直	*Xylotrechus cuneipennis* (Kraatz, 1879)	ウスイロトラカミキリ	渡辺修二
316422	原				*Meganostoma eurydice* Bdv. ♂		新島善直
			北アメリカ		*Zerene eurydice* (Boisduval, 1855)		
316423	原				*Pieris canidia* Sparm	タイワンモンシロチテフ	新島善直
				新島善直	*Zerene eurydice* (Boisduval, 1855)	キチョウ	渡辺修二
316424	原	三十七年九月四日（遼陽占領ノ日）；明治丗七年九月四日	遼陽城北太子河右岸;満洲遼陽	農学士（少尉）篠嵜真秀	*Leucochloe deplidice* L.	テウセンシロテフ♂	近森善一
		1904/09/04	中国遼寧省遼陽市	篠崎眞秀	*Ponita* sp.	チョウセンシロチョウ	
316425	原	Sept 30 1908	台北；台湾		*Hebomoia glaucippe* L. f. *formosana* Fraks.	ツマベニテフ台湾型	近森善一
		1908/09/30	台湾台北市	篠崎眞秀	*Hebomoia glaucippe formosana* Fruhstorfer, 1908	ツマベニチョウ台湾亜種	
316426	原	Sept 12 1908	台北		*Papilio memnon* L. f. *esaki-nakaharai*	ながさきあげは♀	篠崎眞秀
		1908/09/12	台湾台北市	篠崎眞秀	*Papilio memnon* Linnaeus, 1758	ナガサキアゲハ	
316427	原	Sept, 15, 1908	台北		*Junonia asterie* L.	タテハモドキ	篠崎眞秀
		1908/09/15	台湾台北市	篠崎眞秀	*Junonia almana* (Linnaeus, 1758)	タテハモドキ	
316428	原	大正七年八月	樺太	近森	*Leptura virens* L.	アヲハナカミキリ	近森善一
		1918/08/**	樺太	近森善一	*Lepturobosca virens* (Linnaeus, 1758)	アオハナカミキリ	

IPMM	原記載*	年月日	地名	採集者	学名	和名 雌雄	同定者
316429	原				*Papilio philoxenus* Gray. var. *termessus* Fruhs.	オホベニモンアゲハ	近森善一
					Byasa polyeuctes (Doubleday, 1842)	オオベニモンアゲハ	
316430	原				*Papilio aeacus* Feld. var. *formosanus* Rothsch.	キシタアゲハ	近森善一
					Troides aeacus (Felder & Felder, 1860)	キシタアゲハ	
316431	原		台北		*Papilio memnon* L. var. *distantianus* Rothsch	ナガサキアゲハ有尾形	近森善一
			台湾台北市		*Papilio memnon* Linnaeus, 1758	ナガサキアゲハ	
316432	原				*Papilio memnon* L. var. *distantianus* Rothsch	ナガサキアゲハ変種	近森善一
					Papilio memnon Linnaeus, 1758	ナガサキアゲハ	
316433	原				*Papilio memnon* L. var. *androgeus* Cram	ナガサキアゲハ変種	近森善一
					Papilio memnon Linnaeus, 1758	ナガサキアゲハ	
316434	原				*Papilio memnon* L. f. *thunbergi* Sieb.	ナガサキアゲハ変形	近森善一
					Papilio memnon Linnaeus, 1758	ナガサキアゲハ	
316435	原				*Papilio protenor* Cram.; *Formosa* Matsumura	ヲナシクロアゲハ	近森善一
					Papilio protenor Cramer, 1775	クロアゲハ	
316436	原		台湾		*Gonepteryx amintha* Blanch. f. *formosana* Frhs.	タイワンヤマキテフ	近森善一
			台湾		*Gonepteryx amintha formosana* (Fruhstorfer, 1908)	タイワンヤマキチョウ	
316437	原				*Hebomoia glaucippe* L. f. *lidkuiensis* Fruks.	ツマベニテフ琉球型	近森善一
					Hebomoia glaucippe liukiuensis	ツマベニチョウ琉球亜種	
316438	原		台湾		*Appias indra* Moor f. *aristoxemus* Fruhs	クモガタシロテフ	近森善一
			台湾		*Appias indra* (Moore, 1858)	クモガタシロチョウ	
316439	原		台湾		*Prioneris thestylis* Fruks. var. *formosana* Fruks	マダラシロテフ	近森善一
			台湾		*Prioneris thestylis formosana* Fruhstorfer, 1903	マダラシロチョウ	
316440	原					ツマムラサキマダラ♀	近森善一
					Euploea mulciber (Cramer, 1777)	ツマムラサキマダラ	

*ラベル原記載内容の行を原で示した

採集日，採集地，学名について，複数のラベルに同項目の情報が記載されている場合は；で区切り併記した．修正した年月日で，日付が不明な場合は**とした．

図 1　IPMM316419

スケールバーは 10mm（以下同）

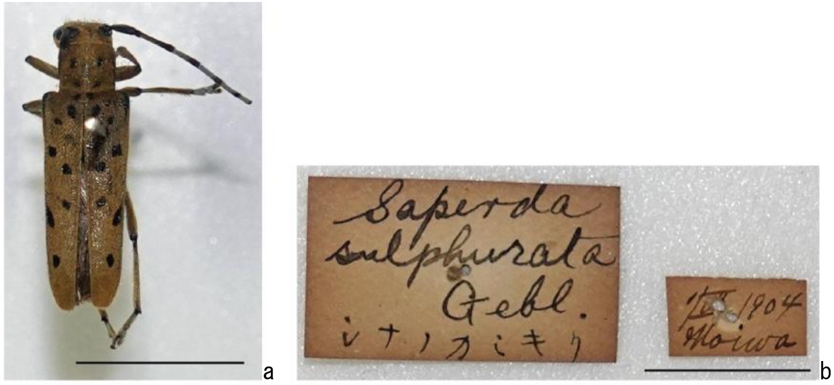

図 2　IPMM316420

図 3　IPMM316421

図 4　IPMM316422

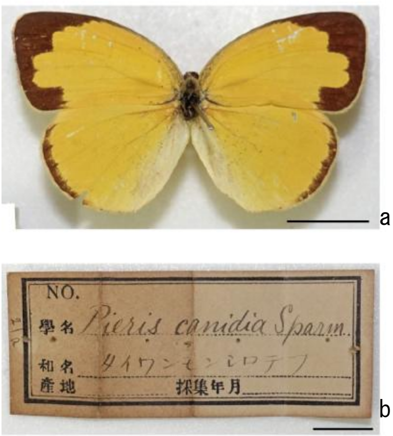

図 5　IPMM316423

図 6　IPMM316424

図 7　IPMM316425

図 8　IPMM316426

図 9　IPMM316427

図 10　IPMM316428

図 11　IPMM316429

図 12　IPMM316430

図 13　IPMM316431

図 14　IPMM316432

図 15　IPMM316433

図 16　IPMM316434

図 17　IPMM316435

図 18　IPMM316436

図 19　IPMM316437

図 20　IPMM316438

図 21　IPMM316439

図 22　IPMM316440